

戊辰戦争時の宮古寄港艦船  
 旧幕府軍艦隊(榎本武揚)  
 明治元年8月19日品川沖を出航  
 8月24日～仙台松島に順次入港  
 10月9日松島出航  
 10月13日～18日宮古港停泊

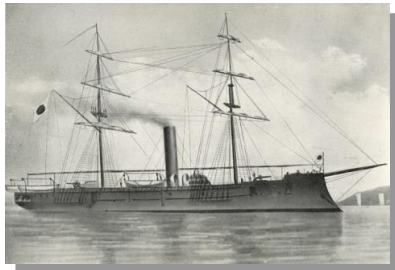
軍艦 開陽、回天、蟠龍、千代田形  
 輸送船 長鯨丸、神速丸  
 松島から合流した  
 大江丸、鳳凰丸、千秋丸

新政府軍艦隊(増田虎之助)  
 明治2年3月9日品川沖を出航  
 宮古港16日～25日

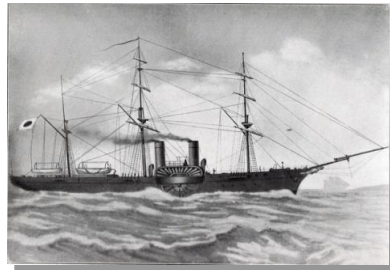
軍艦 甲鉄、春日、丁卯、陽春  
 輸送船 戊辰丸、晨風丸、飛竜丸、豊安丸

当時、宮古港は江戸から蝦夷に向かう最後の補給寄港地であった。

物資・人員の運搬は接岸できる岸壁や棧橋も無く、艦船搭載のカッター(端艇)や地元の伝馬船を使用していた。



新政府軍「甲鉄」  
 排水量1358t 全長59m



旧幕府軍「回天」  
 排水量710t 全長69m

	戦死者	負傷者	行方不明	計
新政府軍 (官軍)	17	4	35	56
旧幕府軍	16	5	21	42
計	33	9	56	98

## 【宮古港海戦】

新政府軍の艦隊(甲鉄ほか七隻)に対し、函館に立てこもる榎本武揚らの軍艦「回天」が宮古港に停泊する「甲鉄」を奪取すべく奇襲をかけた。

この作戦では「回天」の指揮のもと、「高雄」が「甲鉄」に切り込む作戦であったが、暴風雨や故障により、「高雄」「蟠龍」両艦が離脱してしまった。

やむをえず外輪船の「回天」のみで奇襲を決行したが、「甲鉄」への切り込みに難攻し、わずか30分で撤退した。

この戦いには旧幕府軍「回天」に新撰組・土方歳三。新政府軍「春日」にはのちに連合艦隊を率いてロシアのバルチック艦隊を壊滅させた東郷平八郎が乗り込んでいた。

もし、暴風雨や故障もなく、天が旧幕府軍に味方していたなら、奇襲は成功し、この宮古港で日本の歴史が大きく変わっていたかもしれない…。